

## 2020年度の年間の活動

### 1. まちなみガイドの取組

#### ● まちなみガイドの実施と新たな周遊ルートの造成

- 6月16日 「本町地区から疫病退散を願う寺社巡り」31名参加
- 8月22日 江津市建築士会 高原邸を見学
- 8月25日 京都精華大学川島教授他6名をまちなみ案内
- 9月23日 「おてつたび」3名を迎え、取り組みを説明  
3名はときわ印刷の内部塗装と高原邸、交流館の清掃作業  
(9/26~29日迄活動する)
- 9月25日 高齢者大学「くにびき学園西部校」19名、教職員3名  
まちづくり活動の取組を講義し、まちなみを案内
- 10月30日 いわみん「本町地区から疫病退散を願う寺社巡り」案内10名  
が参加
- 10月30日 亀山城址に係る研修会 講師 江津市教育委員会 伊藤創氏
- 11月5日 郷田小学校ふるさと学習 5年生14名(江津本町を案内)
- 11月12日 浜田高校通信制地域巡検の受入れ  
「石見の文化、街を支える人たちの思いを知る」をテーマに、  
まちなみ、亀山城址を紹介
- 11月17日 工学院大学内田先生の旧特定郵便局建物調査同行
- 11月22日 いわみん「江津本町の空店舗をリノベーション」9名参加
- 11月29日 いわみん「本町地区から疫病退散を願う寺社巡り」案内8名参加
- 12月8日 亀山城址の散策コースのための調査



## 2. イベントの取組

- 江津本町まちあるきイベント「ふらり」

3月24日 「ふらり」実行委員会 コロナの心配～延期を検討⇒中止

## 3. 岡山理科大学学生との取組

- 本町地区に存在する窯跡測量調査協力

4月14日 岡山理科大学学生による「窯跡測量調査」ため本町地区にある窯跡

(森脇窯・竹下窯・有田窯)の現地調査を実施(江津市教育委員会と協業)

6月12日 岡山理科大学先生2名と教育委員会職員を案内(山下邸活用)

10月26日 「窯跡調査」の事前対応～地元自治会長他関係者宅訪問

11月28日 岡山理科大学学生8名、先生2名が来江～宿泊(山下邸)へ案内

12月1日 岡山理科大学学生・先生～本町地区を案内(伊藤創・黒川)

岡山理科大学学生たちとお別れ交流会

# 受賞を契機に新たに取り組んでいること

## 1. 空き家空き店舗の調査、利活用

### 1) 高原邸の保存、活用

江戸末期に建造された「高原邸」が解体されることになったが、まちづくり協議会により保存を希望し、江津市と協議したところ、存続に向けて諸手続きを行うことになりました。今後はただ保存するだけでなく、宿泊施設等交流拠点としての活用を目指します。



## 2) 旧ときわ印刷の改修

活動可能な空き店舗・空き家の借用と利活用の調整に取り組みました。2018年度から続く地元の江津工業高校生とのコラボレーション事業で、今年も電気建築課の授業に使用されました。今後も空家を実際の研修施設として活用できるよう、別物件を提供できるよう、引き続き空家、空店舗の調査を進めます。



## 2. 歴史的史実の掘り起しとまち歩きルート造成

### 1) 亀山城址の周遊ルート造成

江津市文化財担当者の調査で「本町地区が中世の街並みを形成している」との報告を受け、亀山城（中世の城郭跡）の遺構を学ぶことができる遊歩道の整備し、散策周遊コースにするための環境整備に取り組みました。樹木の伐採や遊歩道の造成、看板設置を行い、今後はさらに遊歩道の整備が進むので、竹林伐採等未整備部分を改修し、新たなまちあるき周遊コースとしてルート造成します。



### 2) 岡山理科大学と窯跡調査

江津市教育委員会との連携により、窯跡の発掘調査に協力して岡山理科大学の学生による「測量実習調査」の実現につなげました。江津本町地区は「瓦」と「焼き物」の産地として繁栄していた時代があり、その窯跡が竹藪の中の埋もれていたのですが、今回の調査により、その姿が現れました。地元新聞社にも取材され、地域住民への周知にもつながりました。



## 維持管理活動支援費の使途

- 空き店舗の借用費
- 空き店舗調査改修費
- 岡山理科大学博物館実習補助
- 遊歩道整備費
- パンフレット作成費、看板作成費
- 消耗品費
- 謝礼
- 雑費

## 近い将来取り組まなければならない課題

### 1. 使える空き家を増やす

現在モデル的な取組であるので、居住や民泊として活用ができる空き店舗・空き家を調査して増やすことを目指します。本町地区に日本語学校ができるなど、新たな住民を生むチャンスがあるので、使える空き家を提供できる基盤を作ります。

### 2. 増える高齢者世帯への対応

江津本町に一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えています。そういった方々への聞き取りをしながら、安心・安全な居住空間を目指して行く活動につなげます。

### 3. 江津工業高校生や大学生との継続的な関わり

地元の学校、特に江津工業生との関わりを継続していきます。また、岡山理科大学をはじめ、歴史的建造物や街並み調査を課題とする大学と連携し、本町地区への資源の掘り起しを行うとともに、若者の往来を促進します。

### 4. 自治体、地域団体との連携強化と後継者育成

行政はじめ各団体との連携の機会が増えた。江津市役所においても、複数の部署との関係が深まり、事業を後押ししています。また、地域団体や地元高校との連携が、あらたな交流人口を生んでいるので、今後はさらなる連携強化を行い、歴史的な建物を活かしたまちなみを保存、活用していきます。

一方で活動者が特定化させており、後継者の育成（いかに仲間を増やすことができるか）この成果をどう継続していくかということが課題です。地域の高齢化率は高くなるばかりですが、住民の皆様の「住んでみたい町」「住み続けたい町」に繋げていきたいと思います。